

【研究ノート】

中部大学キャンパスブロードキャスター
について

小 中 陽 太 郎*

本稿は、2004年6月より発足したCCB(中部大学キャンパスブロードキャスター〈当時はキャスティング〉)について、その仕組み、放送内容の資料をまとめ、今後の反省と活用に資するものである。資料の収集はメディア教育センターのスタッフがあたった。

1

2004年6月2日(水)、学長杯争奪スポーツ大会の開幕式、足立義則学生部長の開会宣言に続いて、飯吉厚夫学長の挨拶によって熱戦の火蓋が切られた。これを3台のカメラで収録し、その様子を翌週の10日から、学内3箇所(キャンパスプラザ、25号館ロビー、職員食堂)に配置したモニターで放映した。待ちに待った学内放送第一声の瞬間である。

学内放送はスポーツ大会を格好の機会として捉えたものだが、実は構想は2年前にさかのぼる。中長期計画に、メディア教育センター第2部門では次のようにFM放送局を提案した。

*人文学部教授、メディア教育センター長—マスコミュニケーション

2002.10.21

コミュニティFM 放送局について（中部大学春日丘放送局構想）⁽¹⁾

メディア教育センター長・小中陽太郎教授構想のコミュニティFM 放送局構築について、運用開始までの流れをもとに、具現化案を記述します。

この事業計画を進めるにあたり、まず放送局開設準備委員会を構成し、それぞれの担当を決め、開設に向け、目的を持って準備する必要があります。

ハード面の予算については、概算見積をとりました。300万円程度です。

ただ、携帯電話全盛の昨今、FM ラジオのニーズを考えますと、聴取の程度がどうか？ 少々危惧を感じる次第です。

少し視野を広げ、

一方、地域とのコミュニティを深め、春日井市 CATV との連携をさらに強めて、このメディアを有効利用し、コーディネートで結び、中部大学からメッセージを発信するコーナーを設けてはどうかと考えます。

では、話を元に戻し、FM 放送局の立ち上げまでの大まかな流れを下記します。

1. 計画書の作成

放送番組内容、放送時間、

2. 地方電気通信管理局との打ち合わせ

3. 事業計画の策定

事業規模・放送区域：学内のみに留めるか、一部春日井市を取り込むのか

資金計画

送信所、演奏所の確保

送信所は現スタジオに隣接

演奏所は、現スタジオ及び、メモリアルホール、一部教室等考えられる。

4. 免許申請：申請書の準備
5. 審査：周波数・空中線電力等の指定
6. 予備免許：無線設備の工事
無線従事者選任届
試験電波の発射届
7. 工事落成・落成検査
8. 運用開始

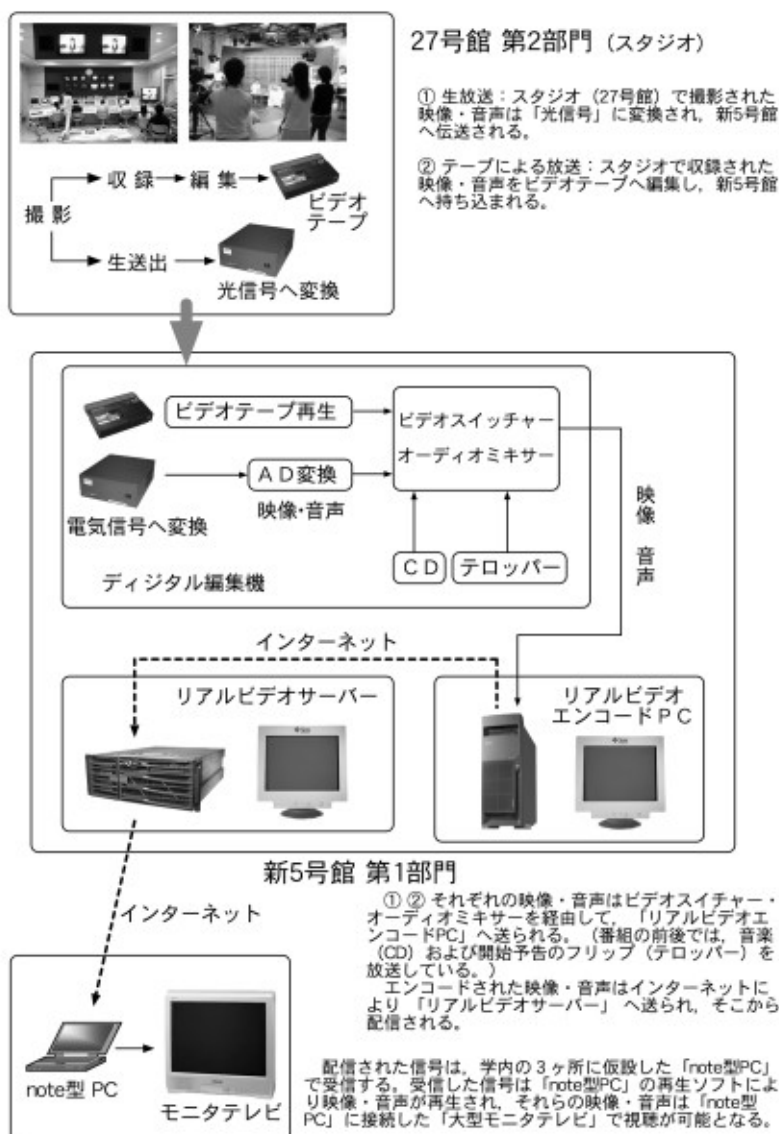
この提案は見られるとおり、FM 放送を目指すために制度的な側面を調査したものであった。

この中で、「地域とのコミュニティを深め、春日井市 CATV との連携をさらに強めて、このメディアを有効利用し、コーディネートで結び、中部大学からメッセージを発信するコーナーを設けてはどうかと考えます。」という箇所をまず実現させるために、中部ケーブルネットワーク (CCNet) での毎週日曜日「中部大学学生作品」の欄を利用した。これは五十嵐滋講師の献身的な指導の賜物である。

ここで番組の企画、制作に自信を持ったわれわれは、いよいよ学内放送に挑むことになった。それは企画中「サーバーから発信、公開する i モード放送局、インターネット放送局をも検討してみてもどうかと考えます。」という箇所である。

これが可能になったのは第 1 部門長、後藤英雄教授の提案である。

その仕組みを解説すれば⁽²⁾、



こうして開会式に続いて開かれた長縄跳び、フットサル、リレーを収録した。スタッフは、第1部門長、後藤英雄教授、丹羽一仁講師、野寄誠教育技術員、第2部門、成田徹男教育技術員、松尾聡子センター員、小中陽太郎、学生は小中陽太郎メディアゼミ4年生、3年生、2年生有志があたった。

放送内容は、前半に学長、副学長、学部長のインタビュー、後半30分をスポーツ大会の実況録画とした。

放送開始のニュースは、中日新聞に大きく紹介された。

中部大生が番組手作り⁽³⁾

放送局誕生 LAN で学内に放映



カメラを構える中部大生ら＝春日井市松本町で

中部大の学生たちが撮影、編集し、学内行事などを伝える放送局が、春日井市松本町のキャンパス内に開局した。「中部大学キャンパスブロードキャスター(CCB)」。17日には、平和運動に尽くした「第九条の会」日本事務局代表で中部大名誉教授の故

勝守寛さんの追悼番組を生放送した。

人文学部教授で作家の小中陽太郎さん(69)が「学内行事を外へも発信しよう」と企画。工学部教授の後藤英雄さんらの協力でキャンパスのスタジオから発信する映像を、LAN回線を通じて学内3カ所のテレビに映し出す仕組みを完成させた。インターネットのホームページ(HP)で見ることができる。

小中さんのゼミ生を中心に30人のスタッフが、カメラを回したり、映

像を編集する作業に取り組んでいる。10日から放送を始めた。平日の午後零時半と3時から1時間で、毎週木曜日に内容を更新する。

この日は2日開幕した学長杯争奪学科対抗スポーツ大会の様子を伝えた後、「勝守先生の遺志を継いで」と題した10分間の特別番組へ。小中さんが9日に亡くなった勝守さんの足跡を振り返り、「命を大切にした先生の気持ちを忘れない」とコメントした。

アナウンサーを担当する人文学部4年佐々木夕佳さん（21）は「カメラの前の緊張感がいい。自分のやりたいことが広がる気がする」と意欲を見せていた。

CCBのHPアドレスは、<http://ccb.media.chubu.ac.jp/>

（古池 康司）

これ以降のラインアップは以下のとおりである。

CCB 放送内容 2004 年 6 月 10 日～7 月 7 日

月 日	曜日	進行担当	放送内容
6 月 10 日	木	渡邊聡美	飯吉厚夫学長インタビュー 小中陽太郎センター長開局あいさつ 6/2 スポーツ大会 (VTR)
6 月 11 日	金	渡邊淳子	
6 月 14 日	月	佐久間友香理	
6 月 15 日	火	脱 倩	
6 月 16 日	水	叶 思思	
6 月 17 日	木	佐々木夕佳	Dr. コーヘン (VTR) 6/9 スポーツ大会 (VTR) 勝守先生追悼
6 月 18 日	金	服部陽子	
6 月 21 日	月	渡邊淳子	
6 月 22 日	火	渡邊淳子	
6 月 23 日	水	渡邊淳子	
6 月 24 日	木	渡邊淳子	伊藤正之副学長インタビュー 蒲生晴明監督インタビュー
6 月 25 日	金	朴 銀熙	
6 月 28 日	月	脱 倩	
6 月 29 日	火	山本博之	
6 月 30 日	水	金 春愛	
7 月 1 日	木	渡邊淳子	坪井和男学長補佐インタビュー 6/23 スポーツ大会 (VTR) 教育活動改善表彰式 日本環境学会創立 30 周年記念シンポジウム 宗婷婷インタビュー&エンディング演奏
7 月 2 日	金	丸地未花	
7 月 5 日	月	脱 倩	
7 月 6 日	火	山本博之	
7 月 7 日	水	叶 思思	

2

春学期のさ中、7 月 2 日、本校名誉教授勝守寛教授が逝去された。教授はオハイオ大学チャールス・オーバービー教授とともに「第 9 条の会」を創設された。教授をしのび、小中陽太郎がキャスターとして追悼番組を組んだ。今その内容を紹介すると⁽⁴⁾、

本学名誉教授、本学副学長勝守寛先生が去る 6 月 9 日、胆嚢がんのた

め天国に召されました。79歳でした。

先生のお父上は新聞記者で、同じ記者仲間には有名な反戦ジャーナリスト桐生悠々がいました。桐生は、戦争中「他山の石」を発行し続けましたが、検閲で発禁になるたびに「今回もだめだったよ」と悲しそうな顔をしてお父上のもとをたずねられたことをよく覚えていられました。その父上は、1945年の大曽根の空襲でB29の爆弾で亡くなりました。先生は苦学して本校の前身名古屋第一校を経て、九州大学を卒業されましたが、そのかげには本学創業者三浦浩平先生の実の親子に勝らぬ援助がありました。先生は京都大学で湯川秀樹博士の薫陶を受けられ、世界連邦運動に導かれました。そして本学に助教授として赴任されました。さて1984年オハイオ大学から一人の物理学者が客員教授として本学に参りました。チャールス・オーバービー教授です。教授は朝鮮戦争のB29のパイロットでした。勝守寛先生は教授を広島に案内しました。オーバービー教授は自分と同じようなB29から投下される爆弾の下の地獄絵を見ました。それとともに日本には、戦争を放棄した憲法第9条があることも。戦いも激しいが、それへの抵抗も強いのがアメリカ人です。二人の教授は第9条の会を設立しました。これはアメリカが日本の憲法を変えようとしているとき、逆にアメリカの憲法を変えようというもので、大きな反響を呼びました。教授の2度目の来日は1989年でしたが、このときわたしは3人でお会いしました。

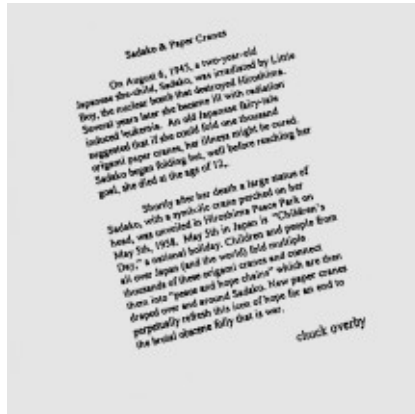
そしてイラク戦争の半年後、昨年10月に来日され、北海道から沖縄まで講演され、大きな感動を呼びました。

その話を聞いた伊藤恵さんです。伊藤さんは国際関係学部一年です。「私はイラクの子どもたちを救えというゼッケンをつけて登校しています」

そしてわたしは11月5日、本学で特別公演を開きました。通訳は本学柳谷啓子助教授でした。ほかに武者小路公秀中部大学高等研究所長、高山智国際関係学部教授が加わっていただきました。

しかしこのとき勝守寛先生は重い胆嚢がんに侵されていました。わた

したちは表に憲法第9条、裏に佐々木禎子の鶴の物語を英文で印刷した折り紙で千羽鶴を折りました。



それを持っていったくれた二人の学生に今日来てもらいました。加藤沙耶加さんと三浦友香さんです。

(教授の印象を語る二人)

そのときの模様を伝える中日新聞です⁽⁵⁾。

平和の折り鶴 “飛来”

米の教授から闘病中の勝守教授へ

憲法第9条の平和主義の理念を訴え続けている「第九条の会」日本事務局代表で中部大（春日井市松本町）名誉教授の勝守寛さん（78）が、同市石尾台の自宅で闘病生活を送っている。会の創設者で、勝守さんと長年親交のある米国オハイオ大名誉教授のチャールズ・オーバービーさん（77）の依頼で中部大の学生らが千羽鶴を折り、有志2人が19日、勝守さん宅を見舞いに訪れた。

(上田 康平)

「第九条の会」の仲間

中部大生が贈る



オーバービーさん

勝守さんは工学部教授だった1981（昭和56）年、客員教授として中部大に招かれたオーバービーさんと出会った。第9条の存在を知ったオーバービーさんは勝守さんの案内で広島県の平和記念資料館を訪れ、被爆の傷跡を伝える展示物を見てショックを受けた。

湾岸戦争直後の91年、オーバービーさんは戦争の放棄をうたった第9条の精神を世界に広めようと「第九条の会」を米国で設立し、勝守さんに伝えた。賛同した勝守さんも会の日本事務局を引き受けた。この後、全国各地に支部ができた。

自衛隊のイラク派遣が取りざたされる中、オーバービーさんは会の取り組みなどを報告するため10月に来日し、全国各地で講演していた。

闘病中の勝守さんの平和憲法への思いに共感した中部大文学部教授の小中陽太郎さん（69）らの呼び掛けで同大で今月5日、オーバービーさんの講演が実現した。

オーバービーさんは、コミュニケーション学科の学生と教授ら約100人を前に、イラク戦争での米国の軍事行動を批判し、9条の精神を訴えた。途中、原爆性白血病のため12歳で亡くなった佐々木禎子さんが病床で鶴を折り続けたという話と9条の条文を書いた10cm四方の紙を取り出し、「鶴を折って」と学生に差し出した。

講演の中で勝守さんとの仲を知った学生らは折った鶴約50羽を、勝守さんに贈ることにした。

この日は代表して1年の加藤沙耶香さん（19）と三浦友香さん（19）、小中さんが勝守さん宅を訪ねた。

小中さんが勝守さんと妻の恵さん（78）に鶴を折った経緯を説明し、加藤さんと三浦さんが「9条を残さないと、大変なことになる」などと

話した。平和主義を貫いてきた勝守さんは折り鶴を手に「ありがとう」と笑顔で感謝していた。



学生2人から贈られた折り鶴を手に笑顔
を見せる（右から）勝守さんと妻の恵さ
ん＝春日井市石尾台の勝守さん宅で

（新聞引用終わり）

勝守寛教授は昨年のクリスマスに日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会にて洗礼を受けられました。教授は小中陽太郎に「この世には人知で図りがたいものがございますねえ」とおっしゃいました。わたしは「いいえすべて主のお導きです」と申し上げました。

その後わたしは各地の平和集会に招かれるたびに鶴を折ってもらい、教授の下に運び続けました。

鶴は棺に納められましたが一部はご遺族の元に残されました。昨日わたしは霊前に献花するとともに、この鶴を借りてまいりました。

鶴アップ

教授の訃報の告げられた同じ9日、新聞は加藤周一、大江健三郎、梅原猛ら9人の学者が9条の会を設立したと報じました。

聖書の「ヨブ記」に「神はとり、神はあたえたもう」ということばがあります。神は勝守寛をとりましたが、新しい9人を与えられました。

勝守寛先生は今あなた方が折った千羽鶴にまもられて高く高く天を飛んでいられます。これで教授の弔問を終わります。曲：テゼ修道院の曲より、「歓喜」。

千羽鶴パンダウンして FO.

3

秋学期を迎えるにあたり、春の反省と秋に向けて全学的協力体制を確立するために放送委員会を開催することとした。

起 案 書

整理番号		文書番号		第 号		発 議 ・ 供 覧	
決 裁 者 ・ 承 認 者	学 長	副学長	副学長	学 監	学 監	接 受	平成 年 月 日
	決 裁					起 案	平成 16 年 月 日
						決 裁	平成 年 月 日
合 議 者	財務部長	財務課次長	学生部長	総務部長	管財部長	施 行	平成 年 月 日
						起 案 部 署	センター長
施 行 注 意	公 印 押 印			・ 種 類 ☐ 法人印 ☐ 理事長印 ☐ 大学印 ☐ 学長印 ☐ その他 () 割 印 ☐ 有 ☐ 無 ・ 部 数 部		署名者 メディア教育センタ 内線 5472 起案者 小中 陽太郎 ®	
件 名 中部大学放送委員会開設について（伺い） 中部大学キャンパスブロードキャスター（CCB）は、去る7月15日に無事前期の全放送を完了いたしました。学長杯争奪スポーツ大会を中心としましたが、この間ご協力いただきました学長以下、各部署、出演者に感謝いたします。 後期には、学園祭の紹介を中心に、8耐レースなどを放送する予定です。 ついては、放送内容を検討し、また反省するために、下記のとおり、放送委員会を立ち上げたく、お伺いいたします。 名称：中部大学放送委員会 目的：CCBの放送番組を審議、検討、情報交換、学内各部署の調整にあたる。 構成メンバー：三浦昌夫学監、学務部・森永樹生、学生部・垣立昌寛、教務部・西川敏治、広報部・中村昭典、広報出版室・鈴木清明、総務部庶務課・出水健一、各学部事務長、 メディア教育センター長小中陽太郎、第1部門長後藤英雄、丹羽一仁、野寄誠、第2部門長（補充後）、成田徹男、松尾聡子、コミュニケーション学科・大橋弘（マスコミと倫理担当）、他に学生オブザーバー2名（後藤ゼミ1名、小中ゼミ大学院生又は4年生1名） 予算：当面なし 事務局。メディア教育センター・スタジオ Ttl. 5841 注：なお学園祭中継のため9号館アーケード下にイントレを組み、32インチテレビを設置することを学園祭実行委員会より許可を得ました。当日はこの上から、8耐を中継する予定であります。イントレ補強の費用について、若干の実費を学園祭実行委員会と折半できると幸いです。							
決裁者・承認者意見						日 付	印
合議者意見						日 付	印

三浦学園起案用紙（様式1）

これが承認され9月22日放送委員会が開かれた

2004.9.22

第1回中部大学放送委員会開催のご案内

メディア教育センター長 小中陽太郎

春学期6月10日から放送を開始した「中部大学キャンパスブロードキャスター・CCB」では、ゲストコーナー、学長杯争奪スポーツ大会など、4週間の放送でしたが、学生たちにとって、意義深いことであったとの評価を内外よりいただきました。

この放送を全学的な立場から運営するために、ご意見をお伺いして、放送内容をより充実させて、よりよくするために、三浦学監を長とする放送委員会を開設し、第1回委員会を下記のように開催する運びとなりました。

校務繁忙のときにはありますが、なにとぞご出席賜りますようご案内申し上げます。

日時：10月7日（木）午後1時30分～2時30分

場所：第二小会議室

議題

1. 春学期放映 CCB 番組の概要

番組の一部紹介（宗婷婷・琵琶奏者）

2. 秋学期放送予定について

10月12日（火）午後収録開始

10月14日（木）～ 放送開始

ワンクール：木・金・月・火・水

放送時間：

放送期間：10月14日（木）～12月7日（火）

放送企画案

- ① リスボン・ロボカップ 2 回分
- ② 大学祭
- ③ その他

構成委員

三浦昌夫学監 事務局長：田中豊茂 事務局次長：椎尾 博 学務部：森永樹生 学生部：垣立昌寛 教務部：西川鉦治 広報部：中村昭典 広報出版室：鈴木清明 総務部庶務課：出水健一 コミュニケーション学科：大橋 弘 各学部事務室事務長：高島昌明・林 英明・高木秀明・木下拡就・額額進吾 メディア教育センター：小中陽太郎・後藤英雄・丹羽一仁・野寄誠・成田徹男・松尾聡子

放送委員会委員長	三浦昌夫学監
メディア教育センター長	小中陽太郎
メディア教育センター第1部門長	後藤英雄
事務局：メディア教育センター・スタジオ	内線：5841

この会議で決定したことは以下のとおりである。

- 1、CCB は、コミュニケーション学科を中心とした学生教育用とする。
- 2、学内から情報を提供してもらうが、教務関係は扱わない。
- 3、制作、編成は、コミュニケーション学科に一任、当然責任も負う。
- 4、来年度は、学生の放送委員会（準備）を立ち上げる。

とくにここで学内情報を定期的に提供してくれる広報出版室田中寿美室長、鈴木清明補佐に感謝したい。

議事録は以下のとおりである。

2004.10.7

第1回中部大学放送委員会

日時：10月7日（木）午後1時30分～2時30分 場所：第二小会議室

構成委員

順不同

三浦昌夫学監 事務局長：田中豊茂 事務局次長：椎尾 博 学務部：森永樹生 学生部：垣立昌寛 教務部：西川鉦治 広報部：中村昭典 広報出版室：鈴木清明 総務部庶務課：出水健一 コミュニケーション学科：大橋 弘 各学部事務室事務長：高島昌明・林 英明・高木秀明・木下拡就・額額進吾 メディア教育センター：小中陽太郎・後藤英雄・丹羽一仁・野寄誠・成田徹男・松尾聡子

事務局：メディア教育センター・スタジオ 内線：5841

議題

1. 春学期放映 CCB 番組の概要

CCB 4 週の放送内容

番組の一部紹介（宗婷婷・琵琶奏者）VTR 再生

2. 秋学期放送予定について

10月12日（火）午後収録開始

10月14日（木）～ 放送開始

ワンクール：木・金・月・火・水

放送時間：

放送期間：10月14日（木）～12月7日（火） 7週間

放送企画案

- | | |
|-----------------|------|
| ① リスボン・ロボカップ | 2 週分 |
| ② 大学祭（8時間耐久レース） | 3 週分 |
| ③ その他 | 2 週分 |

3. その他

4.

秋はリスボンにおけるロボコンを2週にわたり放送した。さらに学園祭の8耐を生中継すべく準備を重ねたが雨天中止となり、来年に期すこととした。

学園祭では、9号館壁面にイントレ（足場）を組み、テレビモニターを設置、学内展示を放映した。内容はコミュニケーション学科253号展示の解説（卒業生竹内恵のインタビュー）、心理学科展示、英語英米文化学科スピーチコンテスト（卒業生大蔵千穂、川端真美）を収録した。

5. 成果と反省

日本でも有数の放送スタジオと電気システム工学科の二つの組織が力をあわせた。そして学生の自主的な参加を育てた。

学生に実際の放送を体験させ「これこそコミュニケーション学科に学んだ意義を感じた」（4年渡辺淳子）の成果を得た。決められた時間内にひとつの企画意図を完成させる達成感を十分に味わったはずである。

他方、学生にとっては、スケジュールが一定しなかったために、十分な責任感が育たなかった恨みが残る。

スポーツ大会を契機に急遽取り組んだが、そのため出演学生の選択が、ゼミ生に偏ったので、秋学期よりひろく希望者に呼びかけ公平を期する。

技術的には、モニター台数が限られているので、これをふやしたい。

インターネットで接続できるが、著作権、完成度の点より学外にまだ周知していない。

また今年度はメディア教育センターの通常予算の範囲でまかなったが、長期的には予算化が望ましい。

このように改善の余地は多いが、本学における教育と情報のために発展を期しているので、協力をお願いするしだいである。

最大の成果は、私事にわたるが筆者にとってである。筆者は公共放送のテレビディレクターとして社会人の道を歩み始めた。

最初の赴任地名古屋で1959年9月26日の伊勢湾台風に遭遇した。その後小田実原作のテレビドラマ「しょうちゅうとゴム」（1962年）演出、やがてベトナム戦争反対の市民運動「ベ平連（ベトナムに平和を！ 市民連合）」創設に参加した。直後アメリカ脱走兵が登場し、その会見を収録した。その映像はメディアを通して伝えられるとともに、運動の各局面で繰り返し上映された。

この2004年6月に、半生を振り返り「ラメール母」（平原社）を上梓したが、その中で、これらのfilmを再発掘した。「しょうちゅうとゴム」はたまたまキネコを筆者がある事情で保存していたために残った60年代初期では珍しいテレビドラマである。これらを再上映し、多くの人々から「新鮮」だと評価されるうちに筆者の長年のわだかまりが氷解していくのを覚えた。

それを今夏、広島、大阪で上映し、また昨年来名古屋で続けてきた市民運動での上映の感想とあわせて以下のように記した。

4 上映運動で発見したこと⁽⁶⁾

いずれの会場でも、話は期せずしてベトナム戦争からイラクに至った。まず脱走兵だが、彼らは「合衆国憲法に照らしても戦争を合理化する理由は見つからない。われわれがベトナム人を殺す理由も見当たらない。だから、脱走を決意した」と自らの意志を語り、「合衆国憲法に勝利あれ！」と結ぶ。ジェンキンス氏にこの勇気あらば、と思う。

当時、開高健は「米兵の戦死者が5万人になったらベトナム戦争は終わる」と言った。当時は500人だった。戦争終結に10年かかった。今イラクでの死者は1000人である。イラク戦争の終結も10年かかるだろう。わたしはそれを待っているのではない、それを1カ月でも2カ月でも早める、また死者の数を100人でも10人でも少なくする、それが平和運動だ。しかし、それは1日ではできない。ベトナムも10年、イラクも10年、わが人生はあと何年残っているのか。しかし、この若い仲間がいる。連帯と友情に触れた難波の夜だっ

た。

私はこの2年、東海マスコミ塾塾頭として結集に努め、ついにNHK 労組（日放労）と民放労連、新聞労連との共闘が花開いたようで、実にうれしい。

わたしは今回の一連の上映運動で大きな発見をした。それを伝えたくて書いている。これまでわたしは、若くしてNHKを離れたことで、自分の青春の夢は絶たれたと思っていた。厳密には、自分で絶ったつもりだった。そして、その分を直接運動で燃焼した。後半生は、テレビ局が起用してくれて、ワイドショーから「朝まで生テレビ」など数々の番組に出演させてもらったし、精一杯、限界の中でがんばったつもりだが、それでもディレクターや放送作家の掌の上で踊るだけという気がしていた。しかし、今は違う。まず小田実とのドラマを見て、その青春の冒険をわれながら面白いと思った。勃興する石油コンビナートをバックに躍進する日本経済を象徴する群舞は、当時流行ったウエストサイドストーリーのパクリとさえ言える。しかし、それもパロディと思えば面白い。小田の目はちゃんと日本の下請けを見抜いている。たしかに、その後あれほど住民を苦しめた四日市喘息について予言できていない。だが、林立する煙突と黒煙をみれば、これがやがて住民を苦しめることになるのは見てとれる。それより、作中NHK 初出演の芦屋雁之助が「あんた、クエートという国を知っていやはるか」と問われて、「なんでんねん？」と目を向く表情こそ、当時の日本人の平均的知識であろう。そして、それを見抜いていたのは、世界を歩いた『何でも見てやろう』の小田の目でなくてなんであろう。

またわたし自身としては、NHKをやめたことで、マスコミ人失脚と思っていたが、このたびNHK時代からの作品と、退職後の脱走兵のフィルム、最近制作した勝守寛追悼番組をみて、そうでもないと思った。人は自分のメティエ（習い覚えた職業的訓練）を一度身につけると、一生使える。よく問題になるが、配転が何だ。もっといえば退職しようと、それが何だ。そう考えないと、定年退職するとそのメティエは無になるではないか。そんなことはない。

だから若いジャーナリストに言いたい。歯を食いしばって腕を磨け、ジャー

ナリストに終わりは無い。

メディアスタジオのいすに座りつつ筆者の見ていたものは筆者の40年と
そしてテレビの歴史そのものであった。

注

- (1) 2004年中長期計画書、メディア教育センター・第2部門教育技術員 成田徹男起草
- (2) 第2部門 教育技術員 野寄誠制作
- (3) 中日新聞 近郊版 2004年7月18日朝刊
- (4) 「放送レポート」『ヒロシマへの道、ヒロシマからの道』（メディア総合研究所）2004年11月号 p. 24
- (5) 中日新聞 近郊版 2004年11月20日朝刊
- (6) 「放送レポート」前掲論文 p. 24

(2004年11月18日 受理)